

令和5年松本市議会12月定例会
市長閉会あいさつ

[5.12.21(木) PM1:30]

閉会に当たり、発言の機会をいただきましたので、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。とりわけ、「松本市の豊かな環境を守り適正な太陽光発電事業を推進する条例」の成立を図ることができたことは、脱炭素社会の実現を目指す松本市にとって大きな意義があると考えます。

来年4月の条例の施行により、自然環境や生活環境を保全しながら、適正な太陽光発電の導入を促進し、ゼロカーボン実現に向けた流れを加速してまいります。

このほか、いただきました市政各般にわたるご意見、ご提言につきましては、十分に研究・検討させていただき、鋭意実現に努めてまいります。

2020年3月28日に松本市長に就任して、3年9か月が経とうとしています。就任後初めての4月臨時会の冒頭、私は、次のように発言しました。一部を朗読させていただきます。

「市長就任から半月余り、世界中に広がった新型コロナウイルスが、私たち一人ひとりの暮らしを大きく揺るがせています。日々刻々と変化する状況に目を凝らし、一体何が起きているのか、直ちに取りべき手立ては何かを考え、判断をしてまいりました。状況は深刻さを増しています。長期戦という言葉は、数週間を我慢することから、少なくとも数か月を覚悟することによって変わろうとしています。」「市民の命と生活を守るためには、これまでの延長線上にはない対応が必要とされています。医療機関の役割分担を明確化し、医療資源の集中と後方支援の体制を構築すること、学校と学校外の預かり施設が境界を取り払い、子どもたちに安全に学べる場を提供すること、そして、お年寄りや障がいのある方々が安心して暮らし続けられる環境を作ること。私は、

議員の皆さんと力を合わせ、松本市民の英知を結集して、この危機を乗り越えていく覚悟であります」。このように当時述べております。

その後、新型コロナは、数か月どころか3年あまりにわたり、私たちから自由を奪いました。社会・経済活動の足かせとなり、市政運営にも大きな影を落としました。しかし、市民の皆さんの忍耐と努力で、未曾有の危機を乗り越えることができました。

そして、奇しくも、コロナとの闘いを通じて、私たちは、自らの足元を見つめ直し、世界からの遅れや東京との違いを自覚し、松本の価値と魅力を再認識したことで、新たな時代を見据えた総合計画を策定して、先駆けとなる多くの政策や事業に着手できたと考えています。

「子どもが主人公」を掲げた教育大綱の下に、一人ひとりの個性に寄り添う多様で先進的な学びを提供する体制を着実に整えてまいりました。

持続可能な公共交通を目指して、路線バスの公設民営化に踏み切り、キャッシュレス決済の導入やターミナル機能の強化を進めてきました。

性別に関わらず平等に機会を与えられる社会を実現するため、女性管理職比率の向上やパートナーシップ宣誓制度の導入に取り組みしました。

こうした一つ一つの政策や事業の積み重ねが、2000年以降で最も多い人口の社会増につながり、まちづくりに関する調査では全国主要都市のうち第8位という過去最高の評価につながったと受け止めています。

自然豊かな環境に感謝し、文化・芸術を楽しみ、共に学び続けることにより、三ガク都に象徴される松本らしさを「シンカ」させる。この総合計画に基づき2030年に向けて、松本市は、前に進み続けなければなりません。その先頭に立ち、市民の皆様とともに、一人ひとりが豊かさや幸せを実感できるまちを作り上げるため、私は来年3月の松本市長選挙に再び挑戦する決意を固めました。

生まれる子どもを増やして少子化を改善するため、子育て世代の経済的負担を軽減する、もう一步踏み込んだ支援策の実行を目指してまいります。

松本市がジェンダー平等の実現をけん引するため、幅広い要職に女性を起用し、女性が意思決定に参画する機会を更に増やしてまいります。

す。

市民に身近な場所でより質の高い行政サービスを提供するため、地域の現場で働く職員を倍増し、地元第一の市役所づくりを推し進めてまいります。

世界に向けて、松本をさらに前へ進めるため。シンカを止めることなく、豊かさと幸せに挑み続けてまいります。

結びに、議員の皆様におかれましては、時節柄、健康にご留意をいただき、良き新年をお迎えになりますようご祈念申し上げまして、12月定例会閉会に際してのごあいさつといたします。

長い間、ありがとうございました。

(以 上)